

和漢診療科 卒後臨床研修プログラム（選択）

I 研修プログラムの目的と特徴

将来の専門にかかわらず、患者を全人的に理解し、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、診療の基本的臨床能力（知識、技能、態度、判断能力）を身につける（経験目標項目）。同時に、現代医療の中においても和漢診療が相補い補完しあう一つの領域であること、またその領域を専門的に行う和漢診療専門医の役割を学ぶ。

II 研修プログラム責任者

プログラム総括責任者： 平 崎 能 郎（准教授、和漢診療学）

III 研修指導医

研 修 指 導 医： 平 崎 能 郎（准教授、和漢診療学）

IV 研修プログラムの管理・運営

内科研修の担当プログラム責任者が管理運営する。

V 募集定員

2ヵ月コース：1期間につき2名まで

VI 教育過程

期間割と研修医配置予定

和漢診療科における研修形態：千葉大学医学部附属病院（2ヵ月コース）

研修1年次あるいは2年次に選択科目として、原則2ヵ月（または1か月）を千葉大学で研修するコースである。

主として附属病院での一般内科外来での和漢診療における医療面接および身体診察技能を修得することができる。入院診療での研修も可能である。時間割は曜日割でのプログラム（外来、入院）が作成されるのでそれに従う。勉強会・症例検討会・講演会などは勤務時間外にも行われるので随時参加する。さらに、研修医に対しては漢方専門医による講義・実習が随時開催される。

Ⅶ 研修内容と到達目標

一般目標（GIO）

- 1) 患者の真の苦しみを理解し、病状を正確に把握するための医療面接に関する基本的な考え方と技能を学び、疾患における心身一如を考慮した治療を学ぶ。
- 2) 疾患および病人を和漢診療学的観点からとらえる技能を学び、和漢診療学理論による六病位、気血水、病因病機、病気の理解、診断法、生薬の基本的な知識と漢方薬の処方についての概略を学ぶ。
- 3) 鍼灸を含めた伝統医学の基本的な考え方と技能を学び、西洋医学と異なる診断、治療法を取得し、西洋医学との共存につき学ぶ。
- 4) 頻度の高い症状に対する和漢診療的治療についての実際の診療を学ぶ。

行動目標（SBOs）

- 1) 一般臨床医として必要な和漢診療学の基本的知識、診断技術、診療の基本的姿勢や態度を修得する。
- 2) 様々な疾患に接する事を通して、患者を全人格的に把握し、その苦痛や希望を理解する。

経験目標

- 1) 和漢診療での医療面接
 1. 良好な患者－医師関係を構築することができる。
 2. 和漢診療での適切な情報を聴取できる。
- 2) 経験すべき診察法・身体診察手技
 1. 和漢診療での診察法の特徴と診察の意味を理解する。
 2. 和漢診療での診察（舌診・腹診・脈診など）を実施できる。

Ⅶ 週間スケジュール

曜日	午前	午後
月曜日	勉強会（朝）・病棟業務・外来見学	病棟業務・鍼灸実習（月1-2回）・病棟カンファレンス
火曜日	勉強会（朝）・病棟業務・外来見学	病棟業務・煎じ薬実習（月1-2回）
水曜日	勉強会（朝）・病棟業務・外来見学	病棟業務
木曜日	勉強会（朝）・病棟業務・外来見学	病棟回診・抄読会・東洋医学自由講座
金曜日	勉強会（朝）・病棟業務・外来見学	病棟業務

Ⅷ 評価方法

1. 研修期間を担当した上級医により総合評価が行われる。
2. 研修医は各到達目標に対する自己評価表を提出する。
3. 上級医により、各到達目標に対する評価が行われる。

4. 研修終了日に研修報告会を行う場合もある。そのとき各研修医は研修の体験を発表する。